



2024年4月にVIEW next 編集部配属となりました丸山です。初めての取材は、奈良県・私立奈良育英中学校・高校でした。緊張しながら奈良駅に到着すると、大勢の外国人旅行者と修学旅行生の姿が。楽しそうな旅行者に囲まれて緊張が少しほぐれ、わくわくしながら学校へ向かいました。同校には、SDGsをテーマにした探究学習やゼミについて伺いました(P.34～35参照)。高校2年次の修学旅行においても、環境問題や教育など、探究学習で設定した課題に応じて自分の興味・関心を深めるとのこと。様々な工夫に、感動しきりの初取材でした。

取材が無事に終わり、ほっとしながら奈良公園を通ると、そこにも修学旅行生のグループが。取材で伺ったお話を思い出し、「この生徒たちは修学旅行でどんなことを考えるのだろう」としみじみとしながら、鹿を眺めつつ帰宅の途に就きました。(丸山)

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法】上の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

VIEWnext

高校版 2024年8月号

8月20日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です。

2024年4月号へのご意見

読解力は学んだことの生かし方の理解にもつながる

授業をしていると、数値や単語を覚えるのが得意な一方で、学んだことの生かし方を理解できていない生徒がいることに気づく。「読解力」を育むことで、学んだことを生活の中でどのように生かしているのかが理解できるようになるのではないかと思う。4月号の特集の[Introduction]で、早稲田大学教職大学院の田中博之教授が述べていた「読解力を高めるには、様々なテキストを読むだけでなく、読んで分かったことや考えたことをまとめたり、そのまとめを他者に伝えることを意識して構成し直し、表現したりするアウトプット活動が欠かせない」という考えに共感した。高校は、社会に出る前に人間の基礎力を育成する場である。知識だけでなく、考える力や表現する力を鍛えることの大切さを改めて感じ、大変参考になった。愛媛県・私立松山聖陵高校 大谷修一

事例を参考に、自身の授業の内容を変更

「総合的な探究の時間」でどのような活動を実施しようか悩んでいた時に、4月号の特集の「Case 1～3」、埼玉県・私立立教新座中学校・高校、神奈川県立横浜国際高校、北海道名寄高校の記事を読んだ。それらの記事で紹介されていた、数ある情報の中から自分に必要な情報を取捨選択する活動や、メディアの表現方法に着目して自分で記事を作る活動にヒントを得て、予定していた「自分の好きなものを羅列して、自分を見つめてみる」という活動を、「自分について記事にして、誰かに伝える」という内容に変更した。今回紹介されていた実践そのものも、本校に合う形にして実践していきたい。愛知県 匿名希望

日常生活の中でも読解力は育める

4月号の特集の「Dialog」での、北海道・市立札幌藻岩高校の対馬光揮先生との対談の中で、つくば言語技術教育研究所の三森ゆりか所長が述べていた、「読解は、『なぜ』『どうして』という疑問から始まります。教師が日頃から質問を繰り返すことで、生徒は理由や根拠をしっかりと考えながら読み、そして理路整然と話せるようになっていきます」という言葉が心に残った。読解力は具体的な教材を通じてだけではなく、日常生活の中でも養える場面がたくさんあると思った。先日、担任をしている1年次のクラスで文化祭の出し物について話し合った。私が時々問いを投げかけて議論の進行を助けたが、そうした時にも読解力を育むことができるのだと感じた。和歌山県立橋本高校 寺田順子

問いの重要性や、海外とのつながりの意義を感じた

4月号の「主体的・対話的で深い学び 授業実践」で紹介された愛知県立大府高校の野々山新先生の記事を読み、問いの重要性を改めて感じた。「交易はよいもの」という生徒の認識を揺さぶるために、単元を貫く問いと、その問いにつながる各時での問いで構成されていた点や、生徒の考察が浅いと感じた場合、生徒間で考察を比較させたり、着目すべき点を指摘したりするといった指導が参考になった。中国の高校生との交流でも、実際に対話をしたからこそ気づける価値観の違いがあり、海外とつながる意義を感じた。それらの点を自分の授業改善に生かしていきたい。静岡県立静岡東高校 樋田範文